

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット1)

事業所番号	0193600319		
法人名	社会福祉法人 鶴川慶寿会		
事業所名	高齢者グループホームふきのとう		
所在地	北海道勇払郡むかわ町田浦250番地		
自己評価作成日	令和5年2月15日	評価結果市町村受理日	令和5年4月4日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0193600319-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	企業組合グループ・ダイナミックス総合研究所 介保調査部		
所在地	札幌市手稲区手稲本町二条三丁目4番7号ハタナカビル1階		
訪問調査日	令和5年3月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・記録を詳しく残し、入居者様の変化等について詳しく話し合える環境である。
 ・新型コロナの影響で外出機会はなくなっているが、レク活動、行事などを通じて職員、入居者様がコミュニケーションを図り、日々を楽しみながら生活できるように支援している。
 ・住み慣れた地域で、その人らしいゆったりとした生活が出来るように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、むかわ町の西方向にある田浦地区に位置し、閑静な地域にある平屋建てユニットのグループホームである。隣接して、同法人の高齢者共同住宅や町立保育所がある。コロナ以前は、園児と合同行事なども行っていた。法人は、社会福祉法人で、特別養護老人ホームを主として運営しており、町民からも信頼が厚く、グループホームは町からの指定管理者として運営している。ホームは、天井が高く欄窓があり、明るく、リビングや廊下も広くゆったりしており、利用者はリビングで寛いで過ごしている。外には、花壇や菜園もあり、季節を感じられる。町と連携して、認知症の理解普及活動も行っており、認知症高齢者の事業所として、これからも期待したい。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	↓該当するものに○印	↓該当するものに○印		↓該当するものに○印	↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9、10、19)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	<input type="radio"/>	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	<input type="radio"/>	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、事業所内に掲示し、ミーティングや会議などで唱和して、共有し実施につなげている。	事業所の理念は、事業所内に掲示し、ミーティングや会議時に唱和しており、月1回の会議の際には振り返りを行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入。地域行事が隣接する高齢者共同生活住宅ごみ荘と、保育園との合同でクリスマス会を開催したり、お祭りで子供神輿が来るなど、地域と交流を図っていたが、新型コロナの影響で実施できていない。	新型コロナウイルス感染症対策の為、地域との交流は制限しているが、保育園の園児とはクリスマスにプレゼント交換するなど継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナの影響もあり、地域とのかかわりもなかった。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている	新型コロナ感染対策の為、書面で通知している	運営推進会議は、新型コロナウイルス感染症対策で、書面会議のみで議事録を配布している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃ではないが、何かあればセンター長を通し協力関係を築いている。	町の施設で、運営委託の為、日ごろから連携して運営しており、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修等で研修を実施し内容も理解できている。玄関の施錠もしておらず、出掛ける時は見守りを実施している。	身体拘束適正化委員会は、法人内で設置しており、定期的開催して、身体拘束しないケアについて検討して、取り組んでいる。研修会も内部研修を行って、学んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内での内部研修で虐待についての研修を定期的実施している。 虐待があったのではないかと役場に投書がはいった。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在の所対象者がいない為行っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	改正等がある時には、書面で郵送し署名捺印を頂いている。不明な点等があればその都度説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の意見や不満がないか日頃から観察している。面会等や玄関に意見箱を設置し、家族からの意見を反映できるように務めている。	ホーム便りを毎月発行して、家族に運営状況を報告している。また、利用者ごとに3ヶ月に1回手紙を書いて生活状況を報告している。施設の広報誌も年3回発行している。家族からの意見は面会時に聞き取って運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議等を利用し意見を求めている。	ケア会議を毎月1回開催し、スタッフ会議を3ヶ月に1回開催しており、職員からの意見や提案を運営に反映している。個人面談は年度末に行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標管理シートの使用方法が変わった為向上心に繋がらない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内で内部研修は実施しているが、新型コロナの影響の為外部に出る機会はなかった。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	新型コロナの影響の為、外部研修等の機会がなかった。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に見学や面談、ケアマネジャー等からの情報を参考に要望に沿えるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込みの相談を受けた段階で困っている事等に耳を傾けている。家族や本人に見学等を勧めホームの雰囲気を見て頂く。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在は対象となる新規利用者がいない。申し込み相談を受けた際に対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	近況報告も定期的に行っている。特変があった時や、本人の私物購入の際なども連絡しながら理解が深まるように務めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナの影響から外出自粛をしていたが、自粛が解除された時に町内ドライブを実施している。	新型コロナウイルス感染症対策の為、家族以外の面会は制限している。理美容院は2ヶ月に1回町内から訪問で依頼している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会話にきっかけを作ったり、橋渡しなどスタッフがやっている。レクリエーションの場を毎日設ける様にしている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同法人の特別養護老人ホーム入所へ経過があり。家族との関わりを持てるように努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の言葉を大切に、記録に入力している。意思疎通が難しい場合にも寄り添ってケアに繋げていけるよう努力している。	意思表示ができる方が殆どで、確認しながら寄り添ったケアに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の聞きとりか、普段からの本人の言葉や、家族からの情報を得る様にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態を観察し、本人が出来ることを探し実施。定期的ケア会議により、日頃の状況についての把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスで介護計画の評価、見直しを行っている。入居者・家族様にはその都度意見を求めて反映している。介護計画作成時は、事前に家族様から要望を聞き、近況報告に努めている。	計画作成担当者が介護計画の原案を作成して、ケア会議で検討しモニタリングして集約し、計画作成担当者が現状に即した介護計画を作成している。見直しは半年毎に行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	会議を毎月行い、見直し情報を共有し、入居者の様子や状態の変化を日頃から観察し、記録をその人の言葉で文章に残している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状況に合わせたケアを実施。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナの影響もあり活用できていない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関があり、受診時は職員が付き添っている。	協力医療機関は、1～2ヶ月に1回職員同行で受診している。救急外来もあり、24時間の対応が可能である。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員はいないが、体調不良時は速やかに受診に繋げている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は担当の看護師と連絡を取り合い、早期退院できるよう医療機関と情報交換に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に説明しており、重度化した場合に再度意向を確認して、同法人の施設や医療機関の紹介など適切な対応をしている。	重度化や終末期については、入居契約時に説明している。重度化した場合は、医療連携が不十分なため、他の施設等への支援となる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時対応や手当は常に身につけておき、素早く対応できるようにしている。救命処置(AED)を設置し全職員が実践できるように努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時マニュアルを設置し避難誘導等を実施している。消防に協力要請を行っている。	火災の避難訓練は、コロナウイルスの影響で、1回のみにと留まった。発電機などの備品や備蓄も整備し、災害対策を行っている。	自然災害対策のBCPが作成中なため、見直しの訓練も含め、令和6年4月までの完成に期待する。

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	会議等で話し合いを行っている。起床後など職員が一人の時は大声で注意をしたりすることがある。	ケア会議で、話し方や接し方について指導している。また、内部研修もねん1~2回実施して対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いが表出しやすいような関わりを心がけている。希望が言い易い雰囲気作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	個々のペースで生活して頂けるように、努力し心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	施設行事などで化粧をしたり、洋服でお洒落をする等支援をしている。2か月に1回訪問美容室で整髪に心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の片付けは力量に合わせ手伝いを行って頂いている。月の行事としておやつ作りなど職員と一緒に作って食している。本人の誕生日に好みの物を提供したり、前庭でバーベキューを行っている。	献立も食材も調理も職員が担当している。利用者は、食器拭きや食材の皮むきなどして手伝っている。前庭でバーベキューや生寿司、稲荷ずしなど楽しい食事の支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重等の確認を取りながら盛り付けなどの見直し、食器等の見直しを行っている。水分量も一日量を摂る様に声掛けしている。本人が摂取しやすいように工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施している。動作が継続できるように支援したり、介助が必要な入居者には、その人に合った介助をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレは奥行きが広く、ゆったりしているが、便座が高い為自立している利用者も失敗することがある。支援の必要な入居者には、その人に合った時間や関わり方で対応している。	自立している利用者が殆どで、自らトイレでの自立した排泄に取り組んでいる。困難利用者には声掛け誘導して支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便を確認し、薬だけに頼らずにヨーグルト等を提供し、排便コントロールを行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	おおむね時間は決まっているが、本人の体調や拒否された時は、日にちや時間をずらして声掛けを行っている。	浴室は広い洗い場で、入浴は週2回行っている。基本は午前中で、曜日も決まっているが、体調やその時の状況によって、個々に沿った支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動の声掛けを行い、休憩時間は本人のペースに合わせている。就寝時は各居室でテレビを観るなどし、個々に眠りについていく。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1日分ずつ内服管理をしている。毎日のバイタル測定。血圧・浮腫に気を付け、かかりつけ医と連携して、薬の調整を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や得意不得意を見つけ生活の中で取り組んでいる。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホームの行事として戸外に出かけられる様に支援しているが、新型コロナの影響で思う様に出かけられなかった。 自宅帰省等は自粛している。	新型コロナウイルス感染症対策で、外出は制限しており、敷地内の散歩や外気浴は支援している。たんぼ公園や四季の館などへ町内ドライブとして、少人数で2回に分けて外出した。終息後は再開予定。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は預かっている。外出時買い物か外食が出来る様にしているが新型コロナの影響の為実施できていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様から電話がかかってくることもある。希望に応じて電話支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	わかりやすいトイレ表示や居間や居室に湿度計を使用し健康面に配慮している。壁紙は季節に応じた飾りを入居者と一緒に作成して展示している。	共用空間は、天井が高く天窓があり、採光や風通しもよく、湿度温度に配慮し床暖房で暖かい。居間や食堂は、広くゆったりしており、壁には利用者の作品や季節の飾りが掲示されており、利用者はリビングで寛いで過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子などを置き独りになれるスペースを作っているが、ほとんど皆居間で過ごしている。居間のソファで思い思いに過ごせるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みの物を持って来て頂いている。仏壇を置かれている方もいる。	居室には、要筆筒と大きな収納があり、広い作りとなっている。利用者は使い慣れた家具や馴染みのものを持参して、工夫して過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できるだけ自由に動けるよう配慮している。転倒が起きないように見守りを行っている。分かりやすい目印や名前を貼る等の工夫をしている。		